# 令和４年度　学校評価表

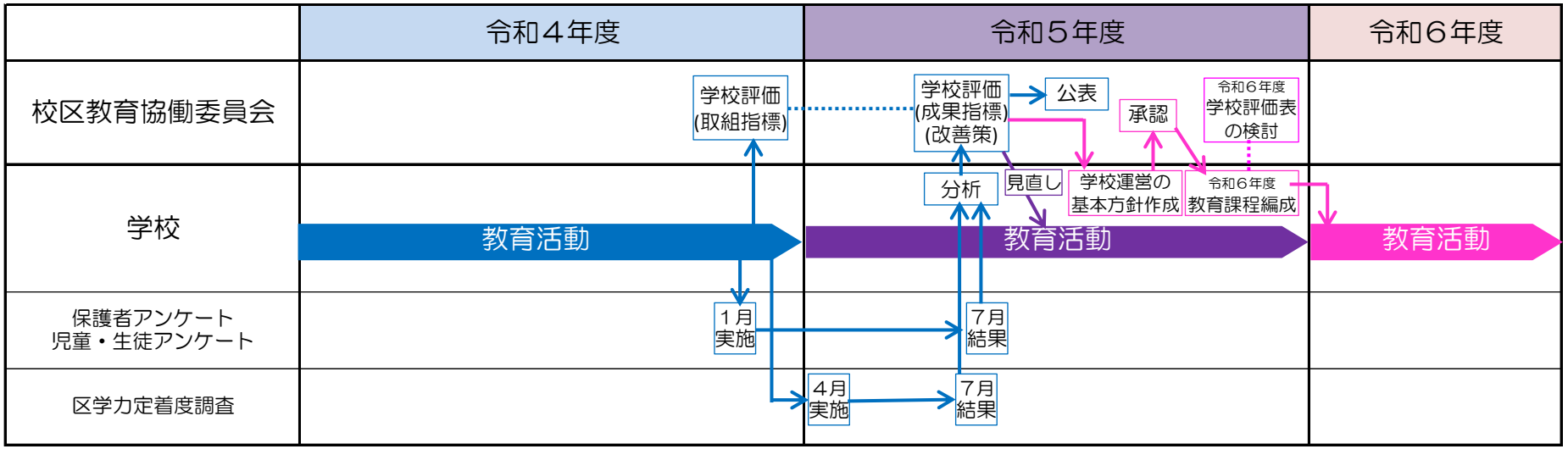
| | | | |
|---|---|---|---|
| 品川区立清水台小学校 | 校長 | 深尾 | 剛 |
| 清水台小学校校区教育協働委員会 | 委員長 | 小野里 | 美帆 |

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正　令和４年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

⑴ 学力に関すること。
⑵ 人間性や社会性に関すること。
⑶ 体力・健康に関すること。
⑷ いじめ防止の取組に関すること。
⑸ 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

**学校評価の流れ**（※令和４年度の学校評価が令和５年度および令和６年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和４年度　学校評価　品川区立清水台小学校

# 評価項目１　学力に関すること

| 重点目標 | 義務教育９年間の６年間を通して「自ら学ぶ姿勢」を定着させます。<br>〇わかりたい、できるようになりたいという意欲の喚起<br>〇自力で問題解決ができる学び方の習得<br>〇豊かな言語感覚を育むための読書習慣の確立 |
|---|---|

| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>２段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>２段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
|---|---|---|---|---|
| ①基礎学力 | 区学力定着度調査において、2～6学年で全教科とも標準スコアが50以上になる。もしくは前学年時の標準スコア以上になる。 | 区学力定着度調査（令和5年4月実施）の正答率では、算数が全ての学年で全国値を上回った。国語は、4つの学年が全国値を上回る結果となった。 | B | 〇国語：概ね全国値をほぼ上回ることができ、基本的な国語力は身に付いている。一方で、2年生は「書くこと」、3年生は「読むこと」4年生は「書くこと」、5年生は「話すこと」「聞くこと」に課題が見られた。読解力を付けるとともに、様々な場面、状況に合わせた記述活動を取り入れ、反復練習を行っていく。 |
| | 朝の帯時間では、週3回は国語、週2回は算数に取り組ませる。計算・漢字だけではなく、文章題にも取り組ませる。 | 朝の帯時間について年間指導計画を作成し、「ことのはノート」、「東京ベーシック・ドリル」「ワークシート」等を活用した指導を実施した。児童の実態に即して国語では漢字の読み書き、言葉の学習、算数では数と計算を中心として反復学習に取り組ませた。 | A | |
| | ICTを活用した学習、繰り返しの学習と個に応じた指導を大切にし、児童にとって分かる授業を展開する。 | ICT機器の効果的な活用を校内研究の中心として、授業改善に取り組んだ。児童もタブレット端末を学期のツールとして活用できるようになってきている。 | A | |
| ②授業改善 | 「好きな教科や授業がありますか」の肯定値が全学年全国値を上回る。 | 「好きな教科や授業がありますか」の質問では、全学年肯定値が90%以上という結果となった。3つの学年の肯定値が全国値を上回る結果となった。 | B | 〇各教科、各単元ごとのねらいを明確にし、児童にめあてや見通しをもたせた学習活動や振り返りの時間を必ず設けるなど、学んだことが確実に定着できるよう経験年数の異なる教員同士がOJTや校内研究などを通してお互いが学び合う機会を設けてく。 |
| | 学習指導のねらいを明確にし、児童にめあてをもたせ見通しをもった学習活動に取り組ませる。 | 教員は、各教科、各単元ごとのねらいを明確にし、児童にめあてや見通しをもたせた学習活動ができるよう日々努めていたため全学年の肯定値が95%以上の結果となった。 | A | |
| | 授業ごと、単元ごと等にめあてに対する振り返りの時間を設け、分かったことや学んだこと等について振り返り活動を行う。 | 振り返りの時間を必ず設けることでアイ-チェックでは、「学習したことを振り返る活動行っていると思う」の回答の肯定率が全学年80%を上回る結果となった。 | A | |
| ③学習と読書習慣 | アイ-チェックの質問「家で週に何日ぐらい勉強しますか」に対して、「ほぼ毎日」「4～5日」という回答が合計で70%を上回る。 | 「学校の授業以外で、週何日くらい勉強していますか」に対して、全学年で「ほぼ毎日」と回答した割合は一番多い。しかし、目標値の70%を上回ったのは1つの学年だけであり、高学年に上がるにつれて勉強時間が減っている。 | B | 〇高学年になるにつれて塾などに通う児童が多くなるが日々の習慣として宿題や自主学習に取り組ませていく。<br>〇宿題を忘れがちな児童や一人で宿題に取り組むことが難しい児童に対しては、家庭と連携して家庭学習の習慣づけを行う。 |
| | 漢字・計算の繰り返し学習や理科・社会の振り返り学習にタブレット端末のeライブラリアドバンスを活用する。 | コロナ禍後は、eライブラリアドバンスの活用する機会は、全学年減っているが、キュビナも合わせて単元ごとの復習や定着などに活用できるようにしていく。 | B | |
| | 年2回読書旬間を設け、読み聞かせや図書委員会の取組等から、児童が読書の楽しさを味わい、読書習慣を身に付けさせる。 | 全学年で月1回のお話会を実施した。年2回の読書旬間には、全教員による読み聞かせや、児童によるおすすめ本の紹介カードの作成・展示等に取り組み、読書に親しむようにした。 | A | |

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和４年度　学校評価　品川区立清水台小学校

# 評価項目２　人間性や社会性に関すること

| 重点目標 | | 義務教育９年間の６年間を通して「礼儀正しい態度」を身に付けさせます。<br>〇規範意識の醸成と思いやり行動の推進<br>〇自主性・自発性・表現力の育成<br>〇自尊感情、自己肯定感の育成 | | |
|---|---|---|---|---|
| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>2段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>2段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
| ①規範意識 | アイ−チェックにおいて、「学校やクラスのきまりを守っている」の肯定率が全国値を上回る。 | 全学年で肯定率が90%を超え、全国値を上回った。 | A | 〇引き続き基本的な生活習慣や社会マナーを校外学習や外部機関を活用した学習などで実践的に身に付けていく。 |
| | 各種スタンダードを基に全教職員で共通指導、共通実践を行う。 | 基本的な生活習慣や社会マナーを身に付けるよう、日常での実践を大事にしている。外部講師を活用したセーフティ教室で、1、2年は不審者対応、3〜6年はスマートフォンやタブレット等の安全な利用(ネットリテラシー)等を学習した。 | A | |
| ②心の教育 | 児童アンケートで「あいさつをしっかりしている」の肯定率を80%以上にする。 | 全学年、肯定率が90%を上回る結果となった。 | A | 〇引き続き、自分から積極的に挨拶ができるよう繰り返し指導を行う。 |
| | 「あいさつ」を大切にし、教職員も児童も様々な場で気持ちのよいあいさつができるようにする。また、「あいさつ運動」をはじめとする児童中心の取組を計画的に行い、あいさつ習慣を定着させる。 | 高学年に対して、学校行事（運動会や学芸会）での係活動、クラブや委員会での委員長・副委員長としての役割と責任をもたせる取組を年間を通して行った。 | A | |
| ③自尊感情 | アイ−チェックにおいて、「自分にはいいところがあると思う（思いやり、明るさ、まとめる力、責任感、努力など）の肯定率が全国値を上回る。 | 成功体験と自信の項目において、4学年で、全国値を上回った。 | B | 〇周りの人から認められた経験が自尊感情を高めると考え、成長段階に応じて適切な課題を与え、指導し、評価を行っていく。<br>〇異学年での交流活動を（あいさつ運動毎日の清掃活動、月１回の交流遊び等）をさらに充実させていく。 |
| | 学級活動や学校行事等で一人一人が役割を担い、友達と協力して活躍できる機会を設ける。 | 係活動や当番等で学級の一人一人が役割を担い、友達と協力して活躍できる機会を積極的に設けている。 | A | |
| | 縦割り班活動等を通して、成功体験や感動体験を積ませて児童に自信をもたせる。また、自他のよさについて認め合う活動を取り入れる。 | 縦割り班での活動（あいさつ当番、清掃等）や「ふれあい月間」での個人、学級、縦割り班のよさを見つけ伝える活動を通して、自己肯定感をもてるようにしている。 | A | |

Ａ＝十分達成できた　Ｂ＝おおむね達成できた　Ｃ＝未達成

令和４年度　学校評価　品川区立清水台小学校

# 評価項目３　体力・健康に関すること

| 重点目標 | 義務教育９年間の６年間を通して「健やかな心と体」の向上と保持増進を図ります。<br><br>〇基礎体力・運動能力の向上のための運動習慣の確立<br>〇食への関心の向上とバランスのよい食習慣の確立<br>〇心身の健康を保つための基本的生活習慣の確立 |
|---|---|

| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>2段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>2段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
|---|---|---|---|---|
| ①体力向上 | アイーチェックにおいて、「学校の授業以外で週に何日くらい運動していますか」で「だいたい毎日」の回答率が全国値を上回る。 | 4つの学年は、全国値を上回る結果となり、1つの学年は全国値と同等の結果となった。 | A | 〇引き続き体育委員会が「ワンミニッツ エクササイズ」を家庭でも取り組めるように呼びかけ、安全管理対策に努めながら、校庭や体育館で外遊びができるように工夫していく。 |
| | 日常的に、区の体力向上施策の計画的な実施と朝や休み時間における外遊びを奨励していく。 | 体育委員会が「ワンミニッツ エクササイズ」を家庭でも取り組めるように呼びかけた。安全管理対策に努めながら、校庭や体育館で外遊びができるように工夫した。 | A | |
| ②食習慣 | アイーチェックにおいて、「朝食を毎日食べている」の肯定率が全国値を上回り、給食の残菜が全学年で10%を下回る。 | すべての学年が90%以上で、全学年が全国値を上回った。保健･給食委員会の「残食ゼロキャンペーン」の取組が、食品ロス削減および環境意識向上につながった。 | A | 〇引き続き、食育推進・充実を図るとともに、食と健康づくりに関心をもつ児童を育てていく。 |
| | 食に関する年間指導計画に基づき、食育の推進・充実を図るとともに、食と健康づくりに関心をもつ児童を育てる。 | 1年生がグリンピース、2年生はトウモロコシと給食食材に触れる活動を実施した。6年生は、家庭科の学習を通して給食の献立作りにも取り組んだ。 | A | |
| | 給食のねらいとマナーの理解、食と健康への意識を高め、実践を通して給食指導の充実を図る。 | 給食では黙食を徹底し、授業や行事で共有するものを使用する際は手袋を着用する等、感染症予防に努めた。 | A | |
| ③基本的生活習慣 | アイーチェックにおいて、「生活習慣」項目の肯定率が全国値を上回る。 | 生活習慣の項目は全学年が全国値を概ね上回る結果となった。「学校に持っていくものを前日に確かめていますか」の項目では全国値を下回った学年があった。 | B | 〇生活習慣の項目は全学年が全国値を概ね上回る結果となった。一方で学校に持っていくものを当日に準備している児童が多かったものの持ち物を前日に確かめている児童が全国値を下回る結果となった。習慣として主体的に事前準備ができるよう指導していく。 |
| | 保健指導の充実を図り、体の仕組みや成長、清潔を保つことなどに関する正しい理解と実践力を身に付けさせる。 | 学校歯科医と東京都歯科衛生士会の歯科衛生士をゲストティーチャーとして1･2年生に歯みがき指導を実施した。保健室前の掲示板には毎月様々な教材を掲示し、主体的に学べるよう工夫した。 | A | |
| | 新型コロナウイルス感染症対策において、感染症基本行動3か条（「3つの密」の回避、手洗い、咳エチケット）を徹底する。 | 教室・体育館・廊下・階段等の換気、手洗い・トイレ等の蛇口の消毒、清掃用具や児童机・椅子の消毒を日常的に実施した。 | A | |

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和４年度　学校評価　品川区立清水台小学校

# 評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

| 重点目標 | 義務教育９年間の６年間を通して「人権教育」を徹底させます。<br><br>〇全教育活動を通した人権教育の徹底<br>〇組織的にいじめ問題に対応する体制の確立<br>〇ふれあい月間を活用したいじめアンケートの実施 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>２段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>２段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
| ①学級風土 | アイーチェックにおいて、「学級の規範意識や学級の絆」の肯定率が全国値を上回る。 | 規範意識の項目では全学年概ね全国値を上回った。しかし「授業中のおしゃべりで勉強に集中できない」「クラスのいいところはあると思いますか？」の質問項目の肯定率が全国を下回る学年があった。 | B | 〇清水台小学校の「よい子のきまり」や「学習スタンダード」を再度児童・教員共に周知徹底していく。経験年数の異なる教員同士がOJTなどを通して学級経営や規範意識について学び合う機会を設けてく。 |
| | 生活指導夕会等で各学級の実情や要配慮児童への対応を共通理解し、組織的に対応する。 | 週１回の生活指導夕会で各学級の実情や困り感や対応方法を共有し、組織的に対応している。 | A | |
| ②リスク管理 | アイーチェックにおいて、「いじめのサイン」の肯定率（良好な回答）が全国値を上回る。 | いじめのサインの項目では全学年が概ね全国値を上回った。（冷やかしやからかい、無視や悪口、暴力、いじめの有無）の項目では、全国値を下回る学年があった。 | B | 〇学年や専科、特別支援員と随時情報を共有し、「いじめのサイン」の早期発見・対応に努めていく。いじめを含めた生活指導上の問題に対して、いじめ対策委員や生活指導部を中心にした委員会を行い、組織的に対応していく。 |
| | いじめを含めた生活指導上の問題に対して、生活指導部を中心に組織的に対応する体制を確立する。 | いじめを含めた生活指導上の問題に対して、いじめ対策委員や生活指導部を中心にした委員会を行い、組織的に対応している。 | A | |
| | スクールカウンセラーや関係諸機関と連携し、早期対応・未然防止に努める。 | スクールカウンセラーや巡回相談員が日常的に授業観察や支援等を行っている。生活指導夕会では学年やすまいるスクールが報告し、情報を共有して早期対応・未然防止に務めている。 | A | |
| ③自他の尊重 | アイーチェックにおいて「友だちからほめられたことがある」の肯定率が全国値を上回る。 | 「友だちからほめられたことがある」の肯定率は、全学年全国値を上回る結果となった。 | A | 〇「ふれあい月間」では、引き続き学校全体を通して友達のよさを見つけ合い、認め合う取組を行っていく。<br>〇問題を一人で抱え込まないように、学年やOJT研修など組織的な校内体制の充実を図っていく。 |
| | ふれあい月間では、友達のよさを見つけ合い、認め合う取組を行う。 | 1学期は友達、2学期は学級、3学期は縦割り班、それぞれのよいところをテーマとして、児童一人一人に書かせ、学級ごとにまとめたポスターを廊下に掲示した。各学級で代表児童を3名決定し、昼の校内放送で紹介する活動を実施した。 | A | |
| | すべての児童をすべての教職員で育てていくことを基本とし、問題を一人で抱え込まない校内体制の充実を図る。 | 定期的にOJT研修を行い、経験年数が異なる教員同士が協力し合い、問題解決に向けて努めている。 | A | |

令和４年度　学校評価　品川区立清水台小学校

公開

# 評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

| 重点目標 | 義務教育９年間の６年間を通して豊かな情操を育て「愛校心や地域愛」を育みます。<br><br>〇地域と連携した学校行事や地域行事の推進<br>〇日本の伝統・文化教育の推進<br>〇全校児童による表現活動の充実 |
|---|---|

| 評価指標 | 最上段：成果指標<br>2段目以降：取組指標 | 最上段：成果指標の達成状況の説明<br>2段目以降：取組指標の達成状況の説明 | 評価 | 今後の課題と改善策 |
|---|---|---|---|---|
| ①家庭・地域 | 保護者アンケートで「学校は、地域と連携している」の肯定率が80%を上回る。 | 「学校は、地域と連携している」の肯定率は、全学年90%以上で平均値を上回った。（区平均89%） | A | 〇本校は、「学校支援ボランティア」の人材バンクが確立していない。来年度に向けて清水台小学校の年間を通した地域人材や支援の確保のために資料を作成していく。そして、これまで以上に支援ボランティアの人数を増やしていき、人材確保と教員の働き方改革にもつなげていきたい。 |
| | 学校から積極的に情報発信を行い、学校の教育活動について保護者・地域の方に知ってもらう。 | 学校ホームページや緊急メール等で学校だよりや学年だよりなど積極的に情報発信を行っている。保護者や地域の方から清水台小学校の教育活動についてご理解いただいている。 | A | |
| | 地域人材をゲストティーチャーとした授業・教育活動を全学年で年間を通して実施していく。日常的に、学校支援ボランティアを募り参画していただく。 | 校区教育協働委員の声掛け協力があり、菜園ボランティアの活動が始まり、生活科や理科での栽培活動への協力を得ることができた。また、生活科や社会科のまち探検、お店調べ等の授業への学校支援活動を行うこともできた。 | A | |
| ②国際理解・表現活動の充実 | 児童アンケートで「季節の行事や学校の行事に参加することは楽しいと思う」が80%を上回る。 | 「季節の行事や学校の行事に参加することは楽しいと思う」が全学年肯定値が80%を上回る結果となった。 | A | 〇「季節の行事や学校行事に参加することが楽しいと思う」の回答が高学年の肯定値が区の平均を下回る結果を受けて、子ども達主体の活動や行事を増やしていくことを検討していく。 |
| | 国際交流活動を通して、外国の文化や立場を理解し尊重する態度を養う。また、茶道や和楽器に親しむことで日本の伝統と文化への理解と誇りを育てる。 | 4年生はTGGでの1日英語体験を行い、外国人スタッフと交流を楽しんだ。5年生は和楽器（箏）、5、6年生は柔道と日本の伝統文化を学ぶ授業を行い、直接体験することで理解を深めた。コロナ禍もあり、1～3年生への取組が十分にできなかった。 | B | |
| | 運動会でのマーチング演奏や表現運動、音楽会に向けた取組を通じて、表現する楽しさや喜びを味わい、理解させる。 | 5、6年生は運動会およびPTA連合会主催のしながわドリームフェスティバルでマーチング＆フラッグの演奏と演技を披露し、校内外の発表の場を経験した。音楽会はマスク着用の演奏となったが、保護者へ直接参観していただくことができた。 | A | |

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成